

第5学年外国語（英語）科 学習指導案

指導者 齋藤 大貴
R6研修センター長期研修

1 「話すこと[やり取り]」の目標

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。

2 単元名 Unit4 Who is this? (NEW HORIZON Elementary5 東京書籍)

3 単元を通した「話すこと[やり取り]」における目標及び評価規準

(1) 目標

A L Tのことをもっとよく知るために、できることや好きなものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合うことができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知〉Who is this?とその答え方 He [She] is～.および関連語句について理解している。 〈技〉できることや好きなものなどについて、Can you ～?や Do you ～?などの表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。	A L Tのことをもっとよく知るために、できることや好きなものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。	A L Tのことをもっとよく知るために、できることや好きなものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、「身近な人の紹介」をテーマとして扱う。Who is this?とその答え方 He [She] is ～. および関連語句、既習の表現を活用しながら、身近な人のできることや性格などについて、たずね合ったり紹介し合ったりする言語活動を行う。この活動を通して、He および She と既習の I や you の使い分けについての理解を深めるとともに、性格などを表す語句や表現の仕方の定着を図る。また、既習の語句や表現を用いて、相手のことを詳しく知るための言語活動を行う。

(2) 児童観

本学級の児童は、スピーチを行う際に、撮影した自分の動画を見直してもう一度チャレンジしようとするなど、意欲的に外国語の学習に取り組んでいる。A L Tに自己紹介をするパフォーマンステスト（令和6年*月*日実施、第5学年*組*人欠席*人）において、モデルの文を用いて7割の児童が発表することができた。しかしながら、「英語で自分の考えや気持ちを伝えることができましたか。」という意識調査（令和6年*月*日実施、第5学年*組*人欠席*人）では、「できていない」や「どちらかといえばできていない」と答えた児童の合計が*人という結果であった。その原因は、「発音に自信がないこと」や「英語の語句や表現の仕方が分からないこと」であると分かった。これらのことから、学んだ語句や表現を使って、やり取りの中で自分の考えや気持ちを表すことに課題がある。

(3) 指導観

本単元は、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合うことをねらいとしている。三人称代名詞（he/she）が導入され、児童にとっては、聞き分け、および使い分けにおいて、つまづきが予想される。説明的にならずに、音声を用いた活動を通して児童の気づきを促していく。また、既習の語句や表現も単元を通して中間指導を丁寧に行っていく。これらの活動において、語句や表現を音声で確認するためのツールとして、「ハグロール」（クラウド上の学習フォルダ）を活用する。「ハグロール」を活用することで、児童が学習到達度（今できることとまだできないこ

と)を把握したり、ALTや他の友達の音声から語句や表現をその場で確認したりしながら、学習に取り組むことができるようになる。このような取組を通して、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を育成していく。

5 単元の指導計画（8時間扱い）（●：指導に生かす評価、○：記録に残す評価）

時間	学習内容・活動 (■：ねらい、丸数字：言語活動、※評価方法)	知	思	態	備考
1	■ 単元のゴールを知るとともに、他人を紹介するために必要な語句や表現を聞き取っている。 ①HRTの発表から、内容を大まかに理解したり、単元のゴールを確認したりする。 ②Let's Chantや映像、音声を使って、本単元で使用する表現を聞き取る。 ※「ハグロール」		●	●	・児童が単元の見通しをもてるようにHRTの発表を行う。 ・イラストを用いて児童とやり取りをしながら進めることで、児童の理解を助ける。
2	■ 「好きなもの」について、自分が必要だと思う表現を使っていたずねている。 ①映像や音声から情報を聞き取る。 ②HRTと児童でやり取りをする。 ③児童間で「好きなもの」についてやり取りを行う。 ※「ハグロール」	●			・語句や表現が分からないときは、場面にかかわらず、「ハグロール」の活用を促す。
3	■ 友達のことを別の友達に紹介するために、できることについてたずね合っている。 ①HRTと児童でやり取りをする。 ②児童間で「できること」に関するやり取りをする。 ③友達について紹介する。 ※「ハグロール」	●			・児童間でやり取りをする中で、表現の間違いや困っている児童の姿が多く見られる場合には、適宜、活動を止めて、全体で確認する場を設ける。
4	■ 相手のことを知るためのやり取りを二往復以上行っている。 ①HRTと児童でやり取りをする。 ②HRTとALTのやり取りを聞く。 ③児童間でやり取りをする。 ※「ハグロール」	●			・場面にかかわらず、「ハグロール」の活用を促す。 ・活動を見守りながら、困っている児童を支援する。
5 本時	■ どんな人なのかを知るために、必要となる表現を使って、たずね合っている。 ①HRTと児童でやり取りをする。 ②児童間で「どんな人なのか」を知るためにやり取りをする。 《本時の流れ》 (1)Warm-Up ・チャンツで表現を練習したり、CAN-DO リストを確認し、活動の見通しをもったりする。 (2)Teacher Talk ・HRTとALTのやり取りを見たり聞いたりしながら、必要な表現に気付いたり、語句を確認したりする。 (3)言語活動① ・児童間で写真を見せながら、Who is this? He [She] is ~.の表現を使って活動する。 (4)中間指導 ・その人についてより詳しく知るために必要な表現を「ハグロール」を活用して調べ、自分で練習をする。 (5)言語活動② ・「ハグロール」から学んだ表現を加えて対話する。 (6)本時の学習を振り返る。 ア 振り返りを記入する。 イ 動画を撮影し、保存する。 ※「ハグロール」		●	●	・児童間での活動がスムーズに流れるように、対話のポイントを示す。 ・語句や表現が分からないときは、場面にかかわらず、「ハグロール」の活用を促す。 ・児童間でやり取りをする中で、表現の間違いや困っている児童の姿が多く見られる場合には、適宜、活動を止めて、全体で確認する場を設ける。 ・友達とのやり取りについての振り返りを行う。CAN-DO リストを一緒に活用することで、児童が学習到達度を把握し、次回の学習の見通しをもてるようにする。

6	■A L Tのことをもっとよく知るために、簡単な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。 ①児童間でやり取りをする。 ②A L Tと児童でやり取りをする。 (パフォーマンステスト) ※「ハグロール」、記録	○	○	○	・言えるようになった表現やこれまで蓄積してきた表現を確認し、パフォーマンステストを想定した練習ができるように声をかける。
7	■新たに得た情報をもとに、A L Tを紹介する動画を作成する。 ①前回A L Tとやり取りをした動画を確認しながら、A L Tを紹介する文を考える。 ②動画に記録する。 ※「ハグロール」、記録	○	○	○	・録画したA L Tとの対話している動画から、自分だけが知っている情報を選び、それを紹介動画に入れるように声をかける。
8	■映像や音声を手がかりにして、日本と世界の文化に対する理解を深める。 ①Over the Horizonの映像や音声から、内容を聞き取る。 ※観察		●	●	・聞く活動の際には、聞く視点を明確にするために、音声を途中で止めたり、児童とやり取りをしたりしながら進める。

6 パフォーマンステストについて

(1) テストの内容

A L Tのことをもっとよく知るために、できることや好きなものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う。

(2) 観点別の採点基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	ほぼ間違いがなく、正しい英語でやり取りしている。	「b」に加えて、相手の話の内容に合わせた質問や適切な反応を交えながらやり取りしている。	「b」に加えて、相手の話の内容に合わせた質問や適切な反応を交えながらやり取りしようとしている。
b	間違いが少しあるが、相手に伝わる英語でやり取りしている。	A L Tのことをもっとよく知るために、できることや好きなものなどについて質問したり、答えたりしながらやり取りしている。	A L Tのことをもっとよく知るために、できることや好きなものなどについて質問したり、答えたりしながらやり取りしようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。